

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700130		
法人名	医療法人 善成		
事業所名	グループホーム 小葉音		
所在地	佐賀県鹿島市大字納富分2126-1		
自己評価作成日	令和3年2月4日	評価結果市町村受理日	令和3年7月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>口腔ケア * 歯科衛生士による「口腔ケア」の実施                  フットケア実施 * 2か月に1回専門職によるケアを行うことによって高齢者の転倒防止に努めます                  楽しい食事 * 地域の食材又季節の食材を取り入れ馴染みの食事を提供します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小さな葉の音が聞こえる程に心配りができるホーム。心に優しいホームを目指し、入居者に向かい、声を聞き、一緒に楽しみ、活動し、日々の生活を大事に家族のように送られているホームである。コロナ禍で制限がある生活を送る中で、地元から出前をとったり、地産地消の食事を楽しいイベントとして入居者の前で鉄板物を作ったり、できる範囲で少しでも楽しく過ごせるように努められている。また、地域の拠点として相談者を行政につなげたり地域の相談所にもなっているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に貼っているもので、職員は目を通しています。理念を踏まえてのケア継続出来ていると思います。	事務所に理念を掲示し、気づいた時には職員同士で声をかけあい、理念を共有し実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議につきましてもコロナの影響会議録等を郵送し助言を頂いたりして交流は行っております。	ボランティアや太鼓の慰問、地域の方や子供達が遊びに来たり、地域の拠点として困りごとにも対応をしている。現在、交流は難しいができる範囲で地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は交流の場に足を向け居りましたが、今年度はコロナの影響で近隣の方に認知症の理解や支援ど呼び聞かせは中々出来ませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で書面を配布し行事予定・活動報告・利用者様状態を報告し、助言等をいただき見直しを行っている。	昨年までは2棟合同で開催していたが、現在は郵送で対応をしている。ホームでの状況報告と返信用封筒を同封し、質問や意見を頂いている。それをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の職員さんに運営推進会議のメンバーに入って頂き報告し助言を頂きサービスの向上に努めています。	ホームの相談や状況報告(ホームでの空き状況)を市に日常的に行っている。実際、地域住民を行政につなげたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はゼロで行っています。利用者様の動きに職員間で連携を取って安全に努めています。参加できるときは研修に行っていたり、利用者様の尊厳に努めています。	リモート研修会に参加し、職員へ伝達講習を行っている。3か月に1回は委員会の会議を開催し職員全員が理解に努め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所に貼って虐待防止に取り組み研修に行っていたりして知識を共有し、利用者様が安心して過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に研修に行った分を再度、当ホームで再勉強会を行い利用者様が安心して過ごせるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族様に重要事項を説明し、納得されたうえでサイン・捺印をもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱玄関に設置しています。	家族の面会時に状況報告を行い、家族の意見を聞かれている。また面会が難しい時は電話で意見、要望を聞き、運営に反映している。しかし、運営推進会議の内容が家族に浸透していない。	運営推進会議録等をいつでも家族が閲覧できるように設置し、意見等頂くような工夫を行い、運営に反映することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンスでそれぞれ意見を出し合い良い意見は取り入れて改善しています。	職員から活発な意見が聞かれる。働きやすい環境作りにも配慮し、入居者目線も大事にしながら意見を取り入れケアに取り組まれている。管理者は個別に声かけ助言を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働管理セミナー等に参加し働きやすい職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修などに、参加し個人のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響でグループホーム交流会も無い月が多かったですが、交流会があった際は参加し、得たものを参考にしてサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様・本人様と信頼関係を構築し安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡などで、話し合いの場を持ち、ご家族様の気持ちに寄り添い傾聴に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の困っていること、又本人様の出来ない所に目を向け支援をおこなっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事時一緒にテーブルで食事したり、寄り添い会話したりして家族の一員。と思って接しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月の1回の小葉音だより・毎月一回の個人便りを発行して状況を報告しています。便りを楽しみに待っている家族様もおられます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナの影響で面会が出来ない時期がありましたが、来られた際には窓越しなどで会話できる場所を提供したりしていました。	ドライブしながら自宅へ行ったり、法事にも参加していた。現在は状況をみながら家族や近所の方と窓越しで面会したり、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調がすぐれない時以外は、ホールで過ごして頂いて、孤立させないように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了者(家族様等)御連絡や町の方であった場合は、相談に乗ったり場合によっては助言するように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の今まで過ごしてこられた中で思いや、こだわりを大切に受け入れることが出来るように努めています。	ゆっくり会話をする時間を作り、入居者の意向の把握に努めている。意向が困難な方は、声掛けを行いながら反応や仕草をみて把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート・アセスメントに目を通して個人の生活歴を把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ安全で、穏やかな生活が出来るように配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意見を取り入れて介護の現場の声を聞いたりしながら計画作成に取り組んでいます。	家族の意向を確認し、カンファレンスを行い介護計画書を作成している。入居者の状態変化時は、すぐに話し合い現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態・状況を観察記録に残してケアの統一を図っています。変更するときは、カンファレンス・ミーティングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の個性・能力を勘案して柔軟なケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は近隣の方と交流は出来ませんが・近隣散歩することによって気分転換・潤いを持って頂くようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期外来受診・急変受診時には主治医と連携を取っている。	入居前のかかりつけ医を継続支援している。定期的な通院は家族が対応をしている。夜間や他科受診は、ホームが対応し家族へ報告を行う等、適切な医療体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行いケース記録に残して、早めの受診・病状等の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のカンファレンスを行い、看護・介護サマリーシートの活用をおこなっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時の対応に係る指針をもらい同意書をいただいています。	ホームの指針は、入居時に説明をしている。看取りの状況になった時は、主治医、家族、ホームと話し合いを行いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と24時間連絡体制を取り入れ、異常の早期発見に努めています。急変時の勉強会がある時は参加も行ってます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（9.3月）の防火訓練を実施しており、運営推進会議等で近隣の方・行政の方の協力支援をお願いしています。	併設のグループホームと合同で、年2回実施している。夜間想定、消防署合同で火災避難訓練を実施している。地域の方も見守り体制で参加している。食料も備蓄されている。	地震対策について、転倒・落下物防止策を含め、火災以外の災害対策にも備えられることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の念を持って接しています。	排泄、入浴時は特に羞恥心の配慮や言葉使いに注意しながら対応している。気になる時は、職員同士で声をかけたり、管理者が個別に話す等、細やかな配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重して、本人の意見に耳を傾けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて又訴え等聞いて支援をおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る洋服又入浴後の化粧水・乳液など付けて頂き保湿されます。男性も入浴後の顔剃り職員と一緒にこなしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に「何を食べたいですか？」聞いたりして献立をたてています。	事前に入居者に食べたい物を聞いて調理し、提供している。また、地元の食材や商店から出前をとって食べたり、入居者の前で鉄板料理を作りみんなで楽しくおいしく食べることができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶・水ばかりでなくジュース・ココア・等色がついた飲み物の提供・体重を月1回測定し低栄養の予防に努めています。毎日の食事チェックも把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の資格を持っている職員がいるので口腔のメンテナンスを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々のパターンを見つけてトイレ介助・誘導・声掛けを行っています。夜間帯は眠りスキャンを活用し排泄パターンを把握し介助を行っています。	排泄チェック表を活用し、昼夜トイレに誘導している。ポータブルトイレを利用せず、安眠センサーを利用して、トイレでの排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて-3日・-4日にて下剤コントロールを行い水分摂取・繊維質の有る食事の提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の好みに応じた温度（40度・41度・42度）本人の希望に添って入浴してもらっています。	週3回希望に応じて個別に対応している。毎日入浴の準備が行われ、希望があれば対応している。また、季節を感じるようにゆずを湯船に浮かべたり個々に添った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家での生活のリズムをなるべく継続できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がわかり易いように処方箋・薬の働き・注意・変更時カルテにファイルして変更時はノートに書いてチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に応じたレク・趣味・散歩・ドライブ等取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は近隣散歩やドライブに行っておりましたが、コロナの影響でピクニック等は出来ませんでした。	コロナ禍以前は、近所のお寺で花見をしたり、日常的に散歩やドライブを行っていたが、現在は、状況をみながら車窓からの花見やドライブを楽しんでいる。コロナ禍でも安全に外出が出来るよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族様がされています。ドライブ時のおやつなどは食べたいものを本人が選んでもらい施設で提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声のトーン・足音に気を使い室温・照明・湿度に気を付けています。季節ごとにホールに壁紙を貼り季節感を出しております。	季節を感じる事ができるよう、季節の花や装飾品で彩られている。ホームには空気清浄機を2台置き、換気、消毒を実施し、安眠を妨げないように足音にも注意し、嫌な臭い、音もなく清潔な環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が会話できる席の設置や、職員が中に入って過ごしたりして工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使用していた衣装ケース・タオル・毛布等持参して頂いています。	持ち込みの制限はなく、使い慣れたタンスや家具を配置している。家族写真を飾り居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は番号で、部屋の中はなるべく障害物を置かない工夫して安全に過ごして頂いています。季節の折紙等折って頂きプレートに貼っています。		